



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新型コロナウイルス感染症が学生生活に及ぼした影響：北海道大学歯学部6年生へのアンケート調査
Author(s)	飯田, 俊二; 井上, 哲
Citation	北海道歯学雑誌, 42, 44-51
Issue Date	2021-09-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/82754
Type	journal article
File Information	42_07.pdf



原 著

新型コロナウイルス感染症が学生生活に及ぼした影響 — 北海道大学歯学部6年生へのアンケート調査 —

飯田 俊二¹⁾ 井上 哲²⁾

抄 録：2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により，北海道大学歯学部6年生（49期生）は3月から長期にわたり臨床実習の停止を余儀なくされ，一方では学生・教員ともに慣れない中，オンライン授業というこれまでに経験したことのない形態での講義が始まった．同年9月より臨床実習が再開されたが，臨床実習は本来同年9月で終了するはずであったので，不足分を補うために班によっては同年11月まで延長することとなった．2021年1月の歯科医師国家試験を無事受験することはできたが，6年生がどのようにこの状況を捉えていたのか，また学生生活にどのような影響を及ぼしたのかについて，国家試験終了後にアンケート調査を行った．その結果，オンライン授業についてや，歯科研修医採用試験などの進路については「満足している」などの肯定的な意見が多かった半面，臨床実習についてはやや不満であり，診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験についてはやや否定的な意見が見受けられた．

キーワード：COVID-19，臨床実習，臨床講義，オンライン授業

緒 言

2020年初頭からパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により，2月27日に北海道内で初の二桁の感染者を確認したことを受け，同日，当時5年次であった北海道大学歯学部49期生が受講するはずだった歯学部5年次専門科目「臨床実習Ⅰ」および「臨床講義Ⅱ」の中止が決定された．その翌日2月28日に北海道では緊急事態宣言が独自に発出され，さらに4月16日に北海道大学新型コロナウイルス感染症対策本部により策定された「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための北海道大学の行動指針（BCP）」¹⁾は4月20日をもって，レベル2からレベル3となった²⁾．一方教員側は臨床実習が停止されている間，高等教育推進機構主催の講習などを聴講することにより遠隔授業（オンライン授業）の方法や利点欠点などを学び，実施するための準備を進め，実際にオンライン授業を行った．6月1日にBCPレベルが2³⁾，7月10日に1へと段階的に下げられ行動制限は緩和された⁴⁾が，臨床実習は北海道大学病院長の実施許可が得られないまま時間が経過し，8月までは臨床実習ができない状況が続き，9月1日より再開となった．10月29日で臨床実習は終了したが，矯正科および高齢者歯科実習が不足した班のみ11月

20日まで実習を継続した．その後，49期生は12月初旬に卒業試験，翌年1月末の歯科医師国家試験を受験し，2021年3月25日に無事卒業した．

このような状況下での学生の勉強や私生活などへの影響は計り知れない部分があったと考え，将来の同様な事象の参考にするため，我々は国家試験終了後の6年生に対して，講義や実習，日常の生活などをどのように過ごしてきたかをアンケート調査した．

対 象 と 方 法

1) 対象者

北海道大学歯学部49期生（2020年度6年生）51名を対象とした．

2) 方 法

アンケート実施期間は，歯科医師国家試験（2021年1月30，31日施行）終了後の2月4日に，対象者全員に無記名のアンケート（図1）をEメールにて送付し，約2週間の記載期間を設けて，回答をEメールにて返送するように依頼した．返送されたアンケート内容を集計し，自由記載についての分析も行った．

¹⁾ 〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目
北海道大学病院口腔総合治療部（井上 哲 教授）

²⁾ 〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目
北海道大学歯学研究院臨床教育部

新型コロナウイルス感染症が学生生活に及ぼした影響
－北海道大学歯学部6年生へのアンケート調査－

49 期の皆様へ

国家試験の受験お疲れ様でした。いつもでしたら試験後のひとときの余暇を楽しみましたが、コロナの影響でそうもいかず、切ない時間を通したりしてないかと、やや心配しております。それで49期の皆さんに飯田から最後のお願いです。

今年(2020.4～2021)は本当に特別な1年だったと思います。臨床実習の停止やオンライン授業などこちらも対応に苦慮しましたが、課題解決と今後のために、皆さんの事直ぐ意見など聞かせていただきたいのです。ぜひとも卒業予定全員51名のお返事をいただきたく、よろしく願っています。

飯田俊二

1. 授業について

1) 講義(臨床講義を含む)はほぼオンラインであったが、内容的にどうだった?
満足 ☐ 普通 ☐ 不満足 ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) オンライン授業で回線が切れたり、のような不都合はなかったか?
あった ☐ 少しあった ☐ なし ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) 自宅での講義の受講について
満足(来だった) ☐ 普通 ☐ 不満足(大学で受けたかった) ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2. 実習について

1) 臨床実習について(実習時間や方法について)
満足 ☐ 普通 ☐ 足りない ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) 実習評価について(レポート提出や検印など)
満足(問題なし) ☐ やや不満あり ☐ 大いに不満 ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) 感染対策について(フェースシールドやマスクなど)
満足 ☐ やや不満 ☐ 不満足 ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3. 試験勉強について

1) 試験(国試や卒試)勉強は十分にできた
できた ☐ 普通 ☐ できなかった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) 試験勉強する環境(自習室など)が
十分にあった ☐ 少しあった ☐ 足りなかった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) 教員の国試対策は十分だった
十分にあった ☐ 少しあった ☐ 足りなかった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

4. コロナ禍での日常生活について

1) 生活(経済的に)に変化があった
コロナ以前と変わらず ☐ 少しきつかった ☐ とてもつらかった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) 精神的につらかった
全くそのとおり ☐ 少しつらかった ☐ つらさは感じなかった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) 友人関係について
より絆が強まった ☐ 今まで通り ☐ 希薄になった ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

5. 研修先について

1) 研修先として勤務したい研修先を探すのは
例と案に決めた ☐ 少し大変であった ☐ とても困難を極めた ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) 研修先の施設の採用試験は、オンラインによる試験だった(複数あれば数も明記)
そうである ☐ (箇所) 現地での対面試験 ☐ (箇所)
試験はなかった ☐ (箇所)
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) マッチングで希望の研修先に決定した
そうである ☐ そうではない ☐ マッチングに出していない ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

6. CSX(一斉技能試験), CPX(臨床実地試験=代替案での施行)について

1) 試験時期は適切であった(10月, 11月)
そうである ☐ やや遅い ☐ かなり遅い ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

2) CSXの試験方法(2グループに分けて)は適切であった
そうである ☐ 普通 ☐ そう思わない ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

3) CPXの試験方法(ビデオを見ての評価など)は適切であった
そうである ☐ 普通 ☐ そう思わない ☐
意見があれば具体的に書いてください。
(意見:)

自由意見:
なにかこれだけは言っておきたいこと、などありましたら、以下の余白に書いてください。

図1 アンケートの質問内容

3) アンケート内容

大項目が6項目(①授業について ②実習について ③試験勉強について ④コロナ禍での日常生活について ⑤研修先について ⑥CSX(Clinical Practical eXam, 一斉技能試験) CPX(Clinical Skills eXam, 臨床実地試験=代替案での施行)について)とし、それぞれに小項目を3つ設け、計18の設問アンケートとした。

結 果

1) 回答数および回答率について

アンケートを配布した51名の学生のうち、32名から回答が得られ回収率は62.7%, 有効回答率は62.7%であった。

2) 授業について(図2-a, b, c)

2020年4月からはすべての講義がオンライン授業になったが、その内容についての評価として、「満足」、「普通」の合計が97%となった。「回線が切れたり、のような不都合はなかったか?」の質問には、「あった」、「少しあった」の合計が78%にのぼり、「パソコンやアプリの更新が突然起きスムーズにオンラインに参加できなかったことがあった」や、「慣れていないせいか一日に多くのコマがあると集中できなかった」などの意見があった。自宅での受講は「満足」、「普通」の合計が78%となり、「不満足」は22%となった。自由意見のなか「満足」としてあげられたのは、「無駄な時間を少なくできて良かったです」や「PDFで講義資料が頂けるのがありがたかった」、「普段よりもスライドが見やすく音量も適宜調節できたため、環境的に良かった」があり、「不満足」の意見としては「やはり家だと講義に参加している感がなく、長く集中しているのが難しかった」、「家で動かないのはストレスを感じることもあった」、「家のWi-Fiが弱く最初は困っていましたが後期は大学側のWi-Fi貸し出しによって途切れることなくオンライン授業を受けることができました」、「PCがクラッシュし、再起動かけなければならないことがままあった」や「先生方のオンラインでの授業に関しての操作方法、トラブル時の対処法などは事前に確認しておくべきである」など、学生・教員双方に器材上の問題があったことが窺える。

3) 臨床実習について(図3-a, b, c)

臨床実習は、5年次の9月から2020年2月までは順調に経過していたが、3月2日から中断を余儀なくされ、各科の対応として、3月から8月までの未実施の実習期間の内容を9月から10月(一部は11月まで)の2カ月ほどで終了できるような代替案によるものがほとんどとなったことから、34%が「不満足」という回答になった。また実習の評価についても91%が「満足」、「普通」を選択し、その例として「レポート提出は少しの時間でも先生に見てもらった方がためになった」や「提出する機会があまりなかったので困ったことなどは特にありませんでした」があった

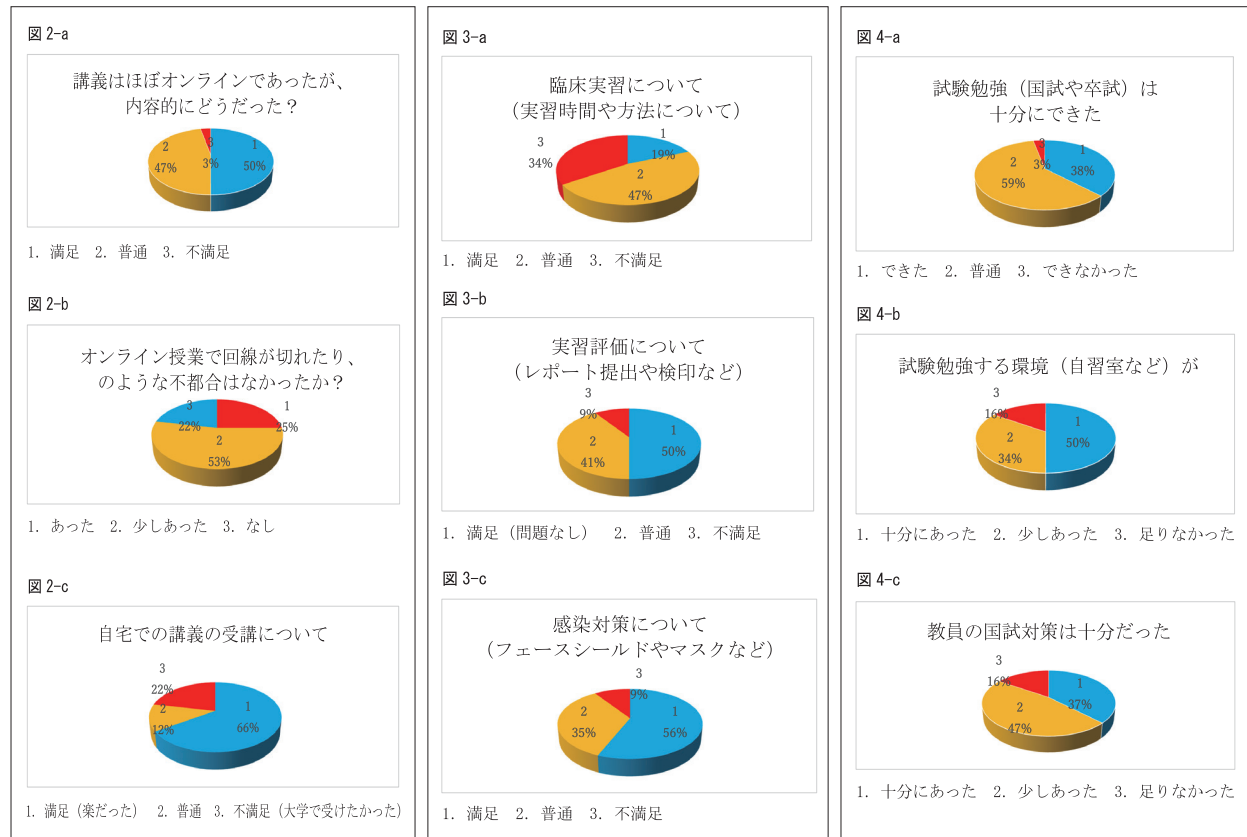


図 2 授業についてのアンケート結果

図 3 臨床実習についてのアンケート結果

図 4 試験勉強についてのアンケート結果

一方、「教員との打ち合わせについての待ち時間が長いことへの不満」や「ミニマムの変更の通知が行き届いていない部分への不満」も自由記載にあった。感染対策については、91 %の学生が「満足」、「普通」を選んでおり、実習再開からのフェースシールドの配布などの大学側の対策が功を奏したと思われるが、「感染対策の徹底を訴える」学生もいた。

4) 試験勉強について (図4-a, b, c)

例年の6年生は三度(6月、9月、12月)にわたる卒業試験(2020年度はコロナ禍のため6月に予定されていた1回目は中止となった)、及び国家試験が歯学部最終学年としての最大の難関となるのだが、本年度は臨床実習が中断となり自宅での時間が大幅に増えたことから、試験勉強は「できた」、「普通」という回答が97 %を占めるという結果が得られた。ただ「自宅での勉強に集中できない」、や「他者との直接の交流で得られる情報が遮断された」など問題も見受けられた。試験勉強をする環境としては、84 %が「十分にあった」、「少しあった」をあげ、大学側が用意し、感染対策にて厳しく制限した自習室への不満や学生側の使用上の問題をあげる学生もいた。教員側の国家試験対策は、84 %が「十分にあった」、「少しあった」をあげ、オンラインでの集中講義を企画してくれた複数の教員への感謝の意見が見られた。

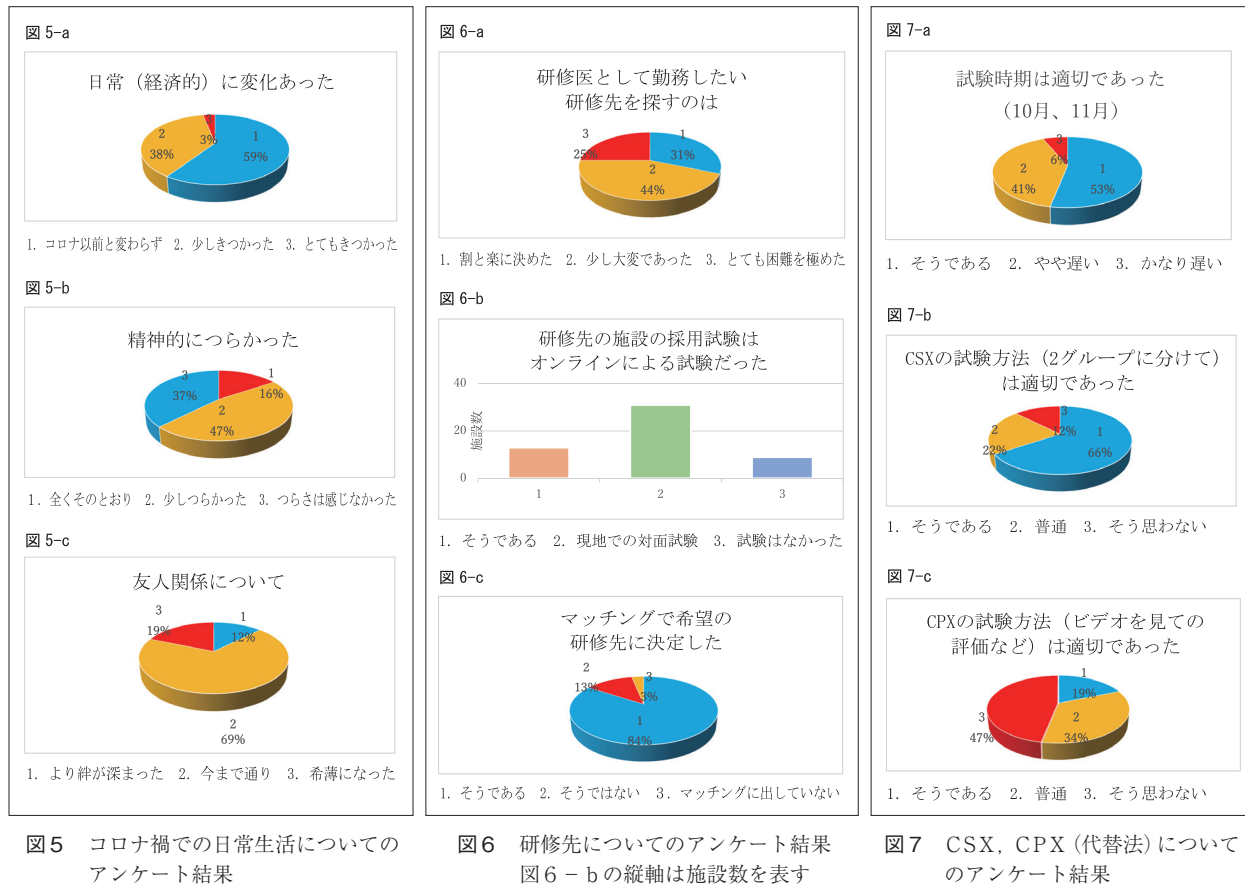
5) コロナ禍での日常生活について (図5-a, b, c)

経済的には、「バイトができなかった」や「バイトの種類でできないものがあった」のような苦労した意見や、「外出しないのでむしろ出費は少なくなったと思う」、「飲み会がなくお金がかかりませんでした」のような意見もあり、「とてもきつかった」を選んだ学生は3 %にとどまった。しかし精神的には「つらかった」、「少しつらかった」を合わせると63 %となり、「ずっと家に一人でいると精神的にしんどかった」、「コミュニケーションをとりながら勉強したりすることも、大事なことだと思った」、「同級生がどのくらい勉強を進めているのかがわからず不安だった。また息抜きもあまりできずにつらかった」のような意見がある一方、「あまりネガティブなほうではないので」、「家でゆっくりできたので良かった」のようなコロナ禍を受け流す考えの学生も37 %存在した。友人関係については「今まで通り」が69 %を占め、ZOOMを利用して共に勉強したりと普段通りのコミュニケーションが取れていた学生がいた一方で、「ご飯や飲みに行くこともできず、希薄になったと感じる」学生も19 %存在した。

6) 研修先について (図6-a, b, c)

歯科医師臨床研修の研修施設を探すのに「割と楽に決めた」と答えた学生は3割ほどとなり、「少し大変であった」と「とても困難を極めた」の合計が7割近くと苦労したこ

新型コロナウイルス感染症が学生生活に及ぼした影響
－北海道大学歯学部6年生へのアンケート調査－



とが分かった。具体的には、「病院見学に行くのが憚られたため」とか「北大以外の情報があまりわからない」といった意見があった。研修希望先の採用試験がオンライン試験であったかどうかは、各学生で複数施設の受験があったので、図6-bにて実数にて表記した。北海道大学病院が北海道在住の学生に限り対面での試験を施行したので「現地での対面試験」と答えた数が31施設であった一方、オンラインによる試験が13施設や、そもそも試験がなかった施設が9施設存在した。マッチングで希望の研修先に決定したかについては84 %の学生が「そうである」と回答していた。

7) CSX（一斉技能試験）CPX（臨床実地試験＝代替法での施行）について（図7-a, b, c）

実施時期については、「適切である」が半数を超えたものの、自由意見にて卒業試験や国家試験に集中できないといった不満を述べる者もいた。新型コロナウイルス感染症対策として、1台おきにアクリル板にて実習台を遮蔽した環境にて行ったCSX試験については88 %が肯定的な反応であった。具体的な意見としては「感染対策としてはよかったと思う」のみであった。また、本来CPXは各診療科外来で診療参加型臨床実習と並行して行うものであるが、コロナ禍のため、教室において医療系大学間共用試験実施評価機構提案の代替案にて行ったCPXについては47 %が否定的な意見であった。

8) 自由意見について（表1）

アンケートの最後の「これだけは言っておきたいこと」の自由意見欄では、様々な意見を記載していたがその中でも6年間お世話になったお礼や、コロナ禍での教員側の臨機応変な対応に感謝の意を表したものなどが多く、一方で、思うような学生生活ができなかったことへの不満を訴える者もいた。

今年は北大での最後の年になりました。それがこのような年になってしまったのは大変残念です。
先生方の対応は感謝でしかないと思っています。
学校側、生徒側両方が納得できるスケジュールを組むのは難しかったと思いますが、おかげさまで無事に国家試験を終えることができました。
本当に今年は先生方、学生たち双方がとても大変な思いをした年だと思います。そのような中で一生懸命スケジュールを組んでくださった先生方には大変感謝しております。
例年通りの十分な勉強環境ではなかったですが、その中でも最大限で学ぶことができ、十分な国試勉強ができたのではないかと考えております。
コロナ下で大変な中、診療でお忙しい中、僕達6年生に対して様々な事をして下さい、本当に有り難うございました。
この一年間、先生方大変お忙しかったと存じます。私たち学生のために多くのお時間を割いていただき、有難うございました。

表1 自由意見の一部

考 察

2020年1月初めにWHOが中国・武漢での原因不明の肺炎を認識し、その後パンデミックを起こしたCOVID-19により、日本国内で徐々に感染者の増加がみられ、特に北海道内に多くの感染者が確認されたため、2020年2月28日に北海道独自の新型コロナウイルス緊急事態宣言が出された。それに伴い、2020年3月2日より当時5年生であった北海道大学歯学部49期生の臨床実習や臨床講義は中断を余儀なくされ、2020年4月の新学期を迎えることとなったが、その間、北海道大学の卒業式や入学式などはすべて開催中止となった。一方、教員はそのほとんどがかつて経験したことがない遠隔授業（オンライン授業）⁵⁾を手探りで行うことになり、その準備に追われた。授業に関しては、オンライン授業で対応が可能だとしても、臨床実習が実施不可能なことが予想された矢先の、2020年4月16日に北海道大学の行動指針（BCP）が策定・発出され（表2）、いきなりレベル2での対応となった。さらにその3日後にはレベル3に制限が強化され厳しい状況に拍車がかかった（表3）。2020年11月18日より現在（2021年5月初旬時点）までレベル2は維持・継続されているが、BCPレベル2の内容については対面での授業ができるように何度か緩和・変更されている。

49期生の5年次終盤から6年次の臨床講義と臨床実習の当初予定と実際の推移は表4に示した。講義についてはオンライン講義を2020年4月より順次開始したものの、臨床実習に関しては2020年8月までは、北海道大学病院を使用する臨床実習を行っている学部や学科（医学部、歯学部、薬学部、保健学科など）の臨床実習が中止されたため、学生は外来に赴くことができず、臨床実習の遂行は困難を極めた。卒業に必要な単位などについて佐藤による報告⁶⁾でも触れているように、文部科学省はすでに2020年2月28日に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種などの各学校、養成所及び養成施設等の対応について」の中⁷⁾で、「大学の単位の認定等の弾力化に係る取り扱いについては連絡事項において示されており、これらに沿った運用がなされた正規の過程を卒業した者については、従来どおり、それぞれ、医師、歯科医師又は薬剤師の国家試験の受験資格が認められること」となっていたため、臨床実習については各講座にて決められていたミニマムリクワイアメントの見直しを行い、講義やレポートによる代替案にて対応した。

通常は6、9、12月に行う予定であった卒業試験は、6月分については授業や実習が大幅に変更や遅延したため中止せざるを得なくなり、9月と12月の2回で対応した。また、基礎系講座にて行っていた研究実習も2020年2月末にて中断せざるを得なくなり、院外実習や訪問診療見学などの外部の病院歯科や開業歯科医院で行う実習も中止となった。

		授業（講義・演習・実験・実習）
レベル0	通常	
レベル1	制限小	感染拡大防止措置を講じた上で、対面で実施する。オンライン授業を積極的利用する。
レベル2	制限中	オンライン授業を中心に実施する。一部の演習、実験、実習などは感染拡大帽子を講じた上で対面で実施する。
レベル3	制限大	授業はオンラインのみで実施する。 ※学生の学内インターネット設備利用不可
レベル4	活動の原則停止	全ての授業を休講とする。

表2 2020年4月17日に発令された北海道大学の行動指針より授業部分を抜粋

2021年5月末現在、その内容は講義や実習など内容はかなり修正されている。

行動指針レベルの変遷	
2020年4月17日～	レベル2
2020年4月20日～	レベル3
2020年6月1日～	レベル2
2020年7月10日～	レベル1
2020年11月18日～	レベル2

表3 行動指針レベルの変遷

2020年11月18日よりレベル2が維持されたまま、2021年3月25日の卒業時に至る。

		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
臨床講義	当初予定	○	○	○	○	○	—	○	○	○	—		
	実際	○	×	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	—		
臨床実習	当初予定	○	△	○	○	○	○	△	○	—	—		
	実際	○	×	×	×	×	×	△	○	○	◇		

○は実施する（した） ×は実施できなかった ▲はオンライン授業

△は春季、夏季休暇などを含む ◇は一部の班のみ実習 —は予定、実施なし

表4 臨床講義、臨床日程の当初予定および実際の推移

今回のアンケートは、無記名にて記入後回収としたが、回収率の低さは回収方法がメールでの送信だったため結果的に記名式と同様と捉えた学生がいたことも理由の一つに考えられる。

このような状況ではあったが、今回のアンケート結果から、学生はPCやWi-Fiの接続に問題があったことに不満を訴えていたものの、オンライン授業については自宅から受けることが容易であったとの結果であった（図2）。一方、臨床実習は大幅に時間が削られ、班によっては、5年次開始時当初に組まれていた実習予定を完了できなかったことに対し不安に思うという結果であった。「来年度このままの状態では歯科医師免許を持ち、患者さんを診るのには大きな不安がある。診断、計画立案、一連の治療、カルテ記載方法など実際の診療を自身ですることを想定したトレーニングがあったほうがこの不安は減るであろう」の意見が当時の現状を端的に表していると思われる。

親の経済的な理由や学生本人のアルバイト困難による経済的な逼迫問題、あるいはまた、人的接触が困難になり、友人関係が希薄化するのではないかとアンケート調査前は予想していた⁸⁾が、精神的なつらさを訴える者や友人関係の希薄化を感じた者は20%を切るような結果であった(図5)。今後このコロナ禍のような事象が起こった場合には、そのような少数意見にも目を向けるべきであろう。特に経済的な不安を訴える声に大学(歯学部)、教員、同窓会などがどう対応できるかを事前に十分検討しておくべきと考える⁹⁾。

歯学部を卒業後の歯科医師としての第一歩として歯科研修医を研鑽しなければならないことは、平成18年度より義務化されている¹⁰⁾。今回のアンケート結果(図6)で、研修先を見つけるのが「少し大変であった」と「とても困難を極めた」の合計が過半数を超えた理由として「病院見学に行くのが憚られたため」や「実際に現地に行けなかったため、判断材料に乏しかった」のようにコロナ禍の影響を受けていることがわかった。ただマッチングで希望の研修先に決定したか、という設問には84%が「そうである」と回答しており、マッチング結果には満足していると思われる。「研修先の施設の採用試験がオンラインによる試験であった」かは、北海道大学病院の採用試験が対面による試験を行ったため¹¹⁾、30を超える施設での試験が「現地での対面試験」であり、その他13か所で「オンラインによる採用試験」、そして9か所で「試験はなかった」という回答があった。

医療系大学間共用試験実施評価機構と北海道大学歯学部にて事前に正式実施(試験に合格することが卒業要件の一つになる)が決定されていた診療参加型臨床実習終了後臨床能力試験¹²⁾については、CSXは2020年10月1日に、CPX(ビデオ視聴による機構提案の代替法)は2020年11月5日に行うこととなり、全員受験し、全員合格となった。臨床実地試験については、ビデオ視聴代替法で行った。自由意見で、「本来、実際に患者さんを相手に行う予定だった試験が動画を見て答える形式になった時点で、あまりやる価値がないように思えた」、「あんなにバカバカしい試験はこの年齢になって初めて受けた」、「(不適切)と(部分的にできていない)の境目が曖昧。解答も自由度の高い解答方法であるのに対し正答の幅が狭かった」、「事前に要点の説明は受けていましたが出題意図がうまくみ取れない問題も多かったように思いました」のように厳しい指摘が多かった。評価者間での評価のすり合わせも十分に時間をかけて行ったにもかかわらず、このように学生からのアンケート評価がよくなかったのは残念であった。またCSX、CPXの実施時期についてはいずれも「国試の勉強に集中しづらかったのももう少し前倒しで行っていただけたら個人的にありがたかった」や「国試勉強の真ただ中であつたので、もう少し早い方が良かった」となどの意見があり、次年度以

降の学年で同様の試験を行う際には実施時期について再考の必要性も感じた。

2021年3月16日に発表された歯科医師国家試験の結果では受験者51名中47名が合格(92.2%)と例年とほぼ変わらない結果となった。合格率だけに注目すると、過去5年間で2番目に高いものであった。学生の努力以外にも、臨床実習が実施できない時期にオンライン授業による歯科医師国家試験対策を自主的にご尽力いただいた教員の手腕にも影響を受けていると思われる。

結 論

北海道大学歯学部6年生(49期生)対象に、歯科医師国家試験終了後にCOVID-19による影響を調べるためにアンケート調査を行い、以下の結果が得られた。

1. 臨床講義はほぼすべてオンライン授業になったが、音声や回線が切れるなどの器材トラブルを除けば、概ね学生にはスムーズに受け入れられた。
2. 大幅に実習時間が削られた臨床実習については、その不足分や班による実習時間差を心配する声が散見された。
3. 日常生活や友人関係についてはやはりコロナの影響はあったと考えられた。
4. 歯科研修医としての研修先を探すのには多少困難があったが、マッチングでは希望通りであった学生が多かった。
5. 診療参加型臨床実習終了後臨床能力試験については、実施時期などの再考が必要と思われた。

本研究の要旨は、令和2年度第6回北海道大学歯学研究院FD講演会(2021年3月29日)にて発表した。

本論文には報告すべき利益相反事項はありません。

参 考 文 献

- 1) 新型コロナウイルスに対する北海道大学の対応について <https://www.hokudai.ac.jp/covid-19/>
- 2) BCPの策定・行動指針レベル3への引き上げについて https://www.hokudai.ac.jp/covid-19/info_200420.html
- 3) 総長職務代理メッセージ：行動指針レベル2への引き下げについて http://www.hokudai.ac.jp/covid-19/info_200601.html
- 4) 総長職務代理メッセージ：行動指針レベル1への引き下げについて http://www.hokudai.ac.jp/covid-19/info_200710.html
- 5) 吉田雅巳：大学授業における対面グループ指導と遠隔グループ指導における交流の比較研究。日教育工学誌、

- 23 : 29-32, 1999
- 6) 佐藤嘉晃：COVID-19に対する北海道大学歯学部への対応－歯科医学教育の観点から．北海道歯誌，41 (1) : 2-18, 2020.
- 7) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校，養成所及び養成施設等の対応について 文部科学省
http://www.mext.go.jp/content/20200302-mxt_kouho_u01-000004520?2/pdf
- 8) オンライン授業に対する学生の本音 関西大学プレスリリース 2020. 11
https://www.kansai-u.ac.jp/ja/assets/pdf/about/pr/press_release/2020/No38.pdf
- 9) コロナ対応の現状，課題，今後の方向性について 文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20200924-mxt_keika_ku-000010097_3.pdf
- 10) 医療法等の一部を改正する法律（抜粋）厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/gaiyou/kanren/kaisei.html>
- 11) 飯田俊二，田中佐織，高師則行，井上哲：歯科医師臨床研修必修化後の北海道大学病院における歯科研修医の動向について．日総歯誌，10 : 33-37, 2018
- 12) 藤井一雄，藤井典孝，田口則宏，都築尊：シンポジウム2 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験．日歯教誌，35 (3) : 85-88, 2019

ORIGINAL

Influence of COVID-19 infection on the student life -questionaries to the 6th grade students of School of Dental Medicine of Hokkaido University-

Shunji Iida¹⁾ and Satoshi Inoue²⁾

ABSTRACT : The influence of COVID-19 infection on the student life -questionaries to the 6th-grade students of the School of Dental Medicine of the Hokkaido University-Due to the COVID-19 infectious disease in 2020, the 6th-grade students of the School of Dental Medicine of the Hokkaido University were forced to cease their clinical training and classes for a long period since March 2020. Also, since both students and teaching staff were unaccustomed to online classes, the classes started under un-experienced situations. The clinical training in the hospital re-started in September 2020 and continued to November 2020 although the training should have finished by September. The students had taken the dentist national exam safely, and after the examination, we investigated the influence of the COVI-19-pandemic-induced online classes and student life by means of a questionnaire-based survey. The results of the survey on following teaching through the online classes revealed that though they reacted positively to the career decision of being residents, they were slightly dissatisfied and expressed some negative opinions toward the clinical training and to the Post-CC OSCE (post clinical clerkship objective structured clinical exam).

Key Words : COVID-19, clinical training, clinical lecture, online classes

¹⁾ Division of General Dentistry Center for Dental Clinics, Hokkaido University Hospital (Chief: Prof. Satoshi Inoue)
Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-8586, Japan

²⁾ Section for Clinical Education, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University (Chief: Prof. Satoshi Inoue)
Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-8586, Japan